

同 志 社 大 学

2013 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014 年 3 月 5 日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・コミュニケーション学部	教 授	中 村 久 男
研 究 題 目	アメリカ南部小説研究、 文学と大衆文化に見るマイノリティー	
研 究 成 果 の 概 要	<p>2013 年は、リンカーン大統領が、奴隷解放令を出して 150 年に当たる記念の年となった。それを受けて大衆文化においても、それを記念する作品が製作された。特に映画という大衆メディアは敏感に反応しており、日本で公開された映画においても、スティーブン・スティルバーグ監督、ダニエル・D. ルイス主演の『リンカーン』、南部奴隷制に刃向い立ち上がる奴隷とそれを支援する白人男性をマカロニウェスタン風に描くクエンティン・タランティーノ監督の『ジャンゴ―繋がれざる者』、アメリカ大リーグ初の黒人プロ野球選手となったジャッキー・ロビンソンと彼を雇用するハリソン・フォード演じるチームオーナーを描く『42～世界を変えた男～』がその代表例として挙げられる。</p> <p>『リンカーン』のリンカーン像は、従来の黒人奴隷を解放した人道主義者であり聖人君主であるリンカーン像の枠を越え、家族関係に悩み、目的達成のためには恐喝、誑し込み等も弄する老獪な政治家である。『ジャンゴ』における黒人奴隷は、白人に追従するだけの黒人ではなく、白人に対抗し自らの目的を達成する人物である。また、『42』においては、ジャッキー・ロビンソンを取り巻く状況は単に南部の差別的状況だけではなく、北部においても人種的偏見が第二次世界大戦後も未だ払拭されてはいなかったことを暴き出して見せる。アフリカ系アメリカ人というマイノリティーを奴隷という身分から解放しようと尽力するリンカーン大統領、鎖を解き放たれた黒人奴隷（『ジャンゴ』の原題は <i>Django, Unchained</i>）、人種差別に苦しみつつもプロ野球において後続のマイノリティー出身選手のために差別に耐えて勝利を勝ち取るロビンソン。これらの映画がメジャーな映画監督やスター俳優を起用して製作される状況になっていること自体、マイノリティーの社会進出を具現化しており、白人だけを観客のターゲットとした映画は成立しにくく、米国においてはマイノリティーを無視しえない状況にあることを反映していると推測できる。かのスパイダーマンも今や白人とヒスパニックの混血という設定になっているのも、オバマ大統領の再選はマイノリティー連合の勝利と報じたウォールストリート・ジャーナル紙の分析的を射た社会状況になっていると言えるであろう。</p>	